

論壇

過度に感情的に反応

「我々が恐怖すべきことはただ一つ、恐怖そのものなのである」。これは、1933年に行われた米国フランクリン・ルーズベルト大統領の就任演説の中の有名な言葉だ。当時、世界大恐慌の最中にあつた米国内は厳しい状況にあつた。人々の行動は悲観に縛られ、消費や投資が大きく落ち込み、株価は低迷していた。自殺する人も多く出た。

「景気は気分から来る」と言われる。人々が悲観的になれば、経済はさらに悪化する。人々の恐怖の気持ちが経済に本当の恐怖を

伊藤 元重 (国際経済学) 学習院大学教授

もたらすことになる。過度に恐怖感を持つていても問題の解決にはならない。ルーズベルト大統領はそう言いたかつたのかもしれない。

恐怖が経済を壊すという意味では、いま世界に混乱を起こしている新型コロナウイルスの問題にも似た面がある。ウイルスが脅威で

きくなることが懸念される。それほど中国の経済的な存在は大きなものになっているし、日本経済のグローバル経済への依存度も高くなっているのだ。

中国人の観光客が激減して、地域の観光地の観光関連業や航空会社に厳しい影響が出ていることは、誰にも想像できるだろう。しかし、

我々が恐怖すべきことは…

は、いま世界に混乱を起こしている新型コロナウイルスの問題にも似た面がある。ウイルスが脅威ではないと言っているわけではない。大問題である。ただ、それに過度に感情的に反応することが社会をさらに混乱に陥れることになりかねない。

今回のウイルス問題がいつ終息するのか分からない。ただ、もし今のような状況がしばらく続くとしたら、経済への影響は相当に大

影響はここに止まるものではない。静岡県に縁が深い自動車産業でも、一部の企業の生産に影響が出ている。中国に進出している日本のメーカーはもちろんだが、中国で一部の部品の生産が止まったことが、日本国内での生産にも部品不足という形で影響を及ぼし始めているのだ。

自動車で起きていることは、電気電子産業でもっと深刻な形で起きているはずだ。中国への依存度の大きさという意味では、自動車よりも電気電子業界の方が大きいからだ。アイフォーンのような世界規模での販売展開をしている商品にも大きな影響が及ぶだろう。日本で店頭から消えてしまったマスクでさえ、その多くは中国で生産されているというのではないか。

正確な情報の提供を

残念ながら、コロナウイルス騒動は経済には相当な影響を及ぼすものと覚悟しなくてはいけない。問題は先だ。ルーズベルト大統領が言ったように、経済の悪化が恐怖ではなく、経済の悪化を恐れることが本当の恐怖なの

だ。コロナウイルスへの対策はしっかりと行うとしても、過度な恐怖感で私たちの生活が振り回されるようなことがあってはならない。

人々が冷静に行動できるようにするために、正確な情報の提供が必要だ。過度に不安を煽るような報道を見かけることが多いが、これでは何の解決にもならない。

一方で、情報を隠すようなことがあってもいけない。情報を隠されると人々はますます疑心暗鬼になるものだ。

経済については、おそらく踏み込んだ経済対策が必要となるだろう。景気全体を支えるマクロ経済政策はもちろんのこと、観光依存度の高い地域の経済を支援するような措置も必要になってくるかもしれない。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。